

感染症発生動向調査委員会報告 12月

今月のトピックス

インフルエンザは例年より早くすべての区が流行期に入りました。

感染性胃腸炎が引き続き増加し、集団発生も見られています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は冬季の流行が見られています。

【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点:88か所、内科定点:57か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

平成20年 週 - 月日対照表

第47週	11月17～23日
第48週	11月24～30日
第49週	12月1～7日
第50週	12月8～14日
第51週	12月15～21日

平成20年11月17日から平成20年12月21日まで(平成20年第47週から第51週まで。ただし、性感染症については平成20年11月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

全数把握の対象

< レジオネラ症 >

12月は25日現在で2例の報告がありました。1月からの報告数は32例(うち31例は肺炎型)となり、昨年1年間の報告数28例を上回り、これまでで最も多い報告数となっています。

全国でも、12月25日までの累計は864例と、すでに昨年の報告数665例を大きく上回っています。(表参照)

レジオネラ症の報告数の年別推移(2000年～2008年)

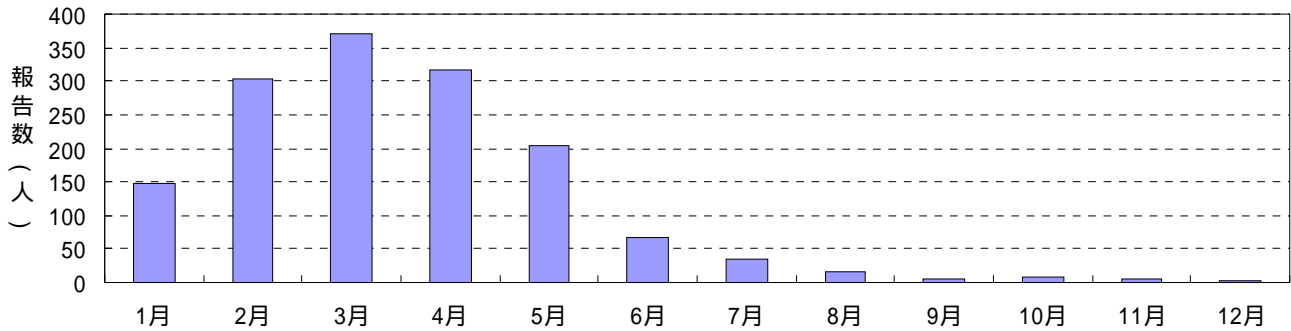
	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
全国	154	86	167	146	161	281	514	665	864
神奈川県	2	2	4	6	6	19	26	43	58
横浜市(再掲)	0	0	3	2	1	8	7	28	32

< 麻しん >

1月から感染症法の5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

12月は25日現在で3例の報告がありました。横浜市における1月からの累計報告数は1482例で、全国の報告数10990例の13.5%です。年齢別では、10代(50.5%)が多く、予防接種前の0歳(5.9%)にも多く発症しています。また、全体の48.4%が予防接種未接種でした。

麻疹月別報告数



2012年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。

横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況(2008年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

定点把握の対象

<インフルエンザ>

第40週に今シーズン初発のA型インフルエンザの報告があり、第41週にはB型インフルエンザの初発の報告がありました。過去6年間で最も早かった昨シーズンに次いで早く、第49週に流行の目やすとなる「1.0」を超え、第51週の定点あたり報告数は4.70と、増加しています。

区別では、緑区(14.00)、戸塚区(8.40)、港北区(6.64)、瀬谷区(6.17)、泉区(5.67)、都筑区(5.29)の順で多く報告されており、すべての区で流行期に入っています。早期のワクチン接種が望まれます。神奈川県(横浜、川崎を除く)は3.56、川崎市は2.48、全国は4.68でした。

迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第51週にA型407件、B型110件の報告がありました。また、第47週以降の病原体定点と集団かぜの検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて29件あり、その内訳はAH1亜型(ソ連型)8件(28%)、AH3亜型(香港型)15件(52%)、B型6件(21%)となっています。

横浜市インフルエンザ流行情報もご覧ください。

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza_rinji_index2008.html

<RSウイルス感染症>

例年冬季に流行が見られますが、今年は立ち上がり早く、第37週から増加の兆しが見られ、第47週に定点あたり0.97とピークとなり、その後減少し、第51週は0.18でした。行政区別では磯子区(1.75)が多く、港北区、青葉区、南区、港南区からも報告があります。神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.64、川崎市は0.61、全国は0.98と、横浜市より高い値です。

< A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 >

例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季の流行に向かって増加します。今シーズンも、第34週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第49週には定点あたり2.52となりました。第51週は少し減少して2.09でした。行政区別では港北区(8.00)が高く、次いで磯子区(3.75)、青葉区(2.67)、栄区(2.67)となっています。過去6年間で最も高い値で推移しているため、今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.56、川崎市は2.94、全国は2.43でした。

< 感染性胃腸炎 >

第43週から増加の兆しが見られ、第51週の定点あたり報告数は18.51と、今シーズンで最も高い値となりました。流行の大きかった2006年ほどではありませんが、昨年と同じくらいの値を推移しており、動向に注意が必要です。行政区別では瀬谷区(34.33)、緑区(33.33)、神奈川区(23.00)、泉区(22.25)、都筑区(22.00)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は21.14、川崎市は26.82と、どちらも横浜市より高い値です。全国は15.85でした。

集団発生が小学校を中心に報告されており、ノロウイルスが主に検出されています。手洗い、うがいの励行など、予防の啓発に努めていくことも重要と思われます。

< 水痘 >

例年、年末にかけて発生が増加します。今シーズンも増加傾向が続いており、第51週の定点あたり報告数は2.41と、今シーズンで最も高い値となりました。今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.82、川崎市は2.88、全国は2.28でした。

< 百日咳 >

第45週には20例の報告がありましたが、その後は減少し、第51週には報告が0になりました。

< 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

11月は、10月に比べて全体としては横ばいです。19歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で2例、淋菌感染症で1例、女性は性器クラミジア感染症で1例、性器ヘルペスウイルス感染症で3例と、10月に比べて減ってはいますが、女性の性器ヘルペスウイルス感染症に10～14歳の感染者があり低年齢化が懸念されます。

【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

衛生研究所から

<ウイルス検査>

2008年12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点66件(鼻咽頭ぬぐい液50件、糞便11件、直腸ぬぐい液3件、嘔吐物2件)、内科定点8件(鼻咽頭ぬぐい液)、基幹定点3件(鼻咽頭ぬぐい液2件、血清1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎36人、胃腸炎17人、発熱のみ7人、発疹3人、口内炎3人、内科定点は関節痛5人、気道炎2人、発熱のみ1人、基幹定点は喘息性気管支炎2人、川崎病・アデノウイルス感染症1人でした。

1月9日現在、小児科定点の気道炎患者6人からインフルエンザウイルスAH1型(以下AH1型)、4人からインフルエンザウイルスAH3型(以下AH3型)、4人からインフルエンザウイルスB型(以下B型 このうち2人はAH3型も分離)、発熱のみの患者3人からAH1型、2人からB型、発疹患者1人からエンテロウイルス71型、内科定点の関節炎患者2人からAH3型、1人からAH1型、気道炎患者1人からB型が分離されています。

これ以外に、PCR検査では、小児科定点の気道炎患者4人と発熱のみの患者1人からAH3型遺伝子が、気道炎患者12人からRSウイルスの遺伝子が検出されました(このうち2人はAH1型、1人はB型分離、1人はAH3型遺伝子検出)。また、胃腸炎患者11人からノロウイルスG2型遺伝子、発疹患者1人からヘルペスウイルス6型遺伝子、口内炎患者3人からそれぞれエンテロウイルス71型、コクサッキーウイルスA 10型、RSウイルスの遺伝子が検出されました。内科定点は関節炎患者2人と気道炎患者1人からAH3型遺伝子が検出され、このうち気道炎患者1人からはRSウイルスの遺伝子も検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

小児科 66件(鼻咽頭ぬぐい液50件、糞便11件、直腸ぬぐい液3件、嘔吐物2件)

		分離				PCR							
		AH1	AH3	B	En71	AH1	AH3	B	RS	Noro	En71	CoxA10	HHV6
気道炎	36	6	4	4*		4			12**				
胃腸炎	17									11			
発熱のみ	7	3		2		1							
発疹	3				1								1
口内炎	3								1		1	1	
		9	4	6	1	5			13	11	1	1	1

* 2検体はAH3型とB型の両方を分離

** 2 体はAH1型、1 体は 分離、1 体は H3 遺伝子も検出

内科 8件(鼻咽頭ぬぐい液)

		分離				PCR							
		AH1	AH3	B	En71	AH1	AH3	B	RS	Noro	En71	CoxA10	HHV6
関節炎	5	1	2						1***				
気道炎	2			1		1							
発熱のみ	1												
		1	2	1		3			1				

*** 1 体はAH3型遺伝子も 出

<細菌検査>

12月の感染性胃腸炎関係の受付は4検体でカンピロバクターが1件より検出されました菌株受付は8件で病原性大腸菌が2件毒素原性大腸菌が1件検出されました。溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は13件でA群溶血性レンサ球菌が11件検出されました。百日咳の検体が15件で検出されませんでした。また、肺炎球菌およびインフルエンザ菌株の受付各1件ありました。